

ご自由にお持ち帰りください。

生涯学習

とっとり

鳥取県教育委員会発行
2015.9 長月

160

鳥取県内の生涯学習講座が満載!

ページ

1 ★特集

男のクラブ主催の コーヒーショップが地域をつなぐ

倉吉市小鴨公民館

- 3 ★楽しくなくちゃ人権学習じゃない
人権バンド 'しんゆう'
- 4 ★とっとり県民カレッジ
 - 9・10月講座情報 (連携講座)
- 26 ★連携講座 おすすめピックアップ
 - 平成27年 鳥取大学公開講座
 - 59th 県展
- 27 ★お知らせ
 - 鳥取県立生涯学習センター (県民ふれあい会館)
- 29 ★船上山少年自然の家・大山青年の家
- 30 ★学校と地域の連携
若者の力で地域づくり! 板井原集落
- 31 ★ご案内
 - 近畿高等学校総合文化祭鳥取大会
 - 県政参画電子アンケート
 - とっとりふれあい 人権マンガ大賞



『切り絵シリーズ』日南町のそば畑 (日南町)

日南町と言えばトマトというイメージが強いが、忘れてならないのが「日南そば」
初秋の風物詩、真っ白な白い花のジュータンに、風にゆれるコスモスが色を添える。

絵・文：紙原 四郎氏

男のクラブ主催の コーヒーショップが地域をつなぐ



倉吉市小鴨公民館

倉吉市の中心部から関金方面に少し進んだところに位置する倉吉市小鴨公民館。この公民館で毎月第3火曜日の午前中に「男のクラブ」が主催する「コーヒーショップ Ogamo」が開かれると聞いて取材に行ってきました。最初に波田野館長に小鴨公民館の取組についてお話をうかがいました。

公民館の役割は

「まなぶ・つどう
・つなぐ」

倉吉市小鴨公民館
はたのしょうじろう
館長 波田野 頌二郎さん



小鴨公民館の特徴は、一つは公民館と隣保館（現在の人権文化センター）の合築施設ということです。公民館の職員と人権文化センターの職員が共に協力しながら、人権尊重の地域づくりに取り組んでいることがまずあげられます。二つは公民館の管理運営は〈行政が行う社会教育から住民主体の社会教育へ〉という考えのもと、昭和44年に地区の人たちに管理運営を委託する〈委託公民館制度〉が取り入れられ、今日の指定管理者制度へスムーズに移行しました。この制度は市13地区公民館共通です。

〈地域に根ざした社会教育〉が公民館活動の基本ですから、私たち職員は地域の人たちが、自分たちの地域をよくするために自分たちで考え、自分たちで仲間づくりをし、地域づくりへすすんでいけるようにと支援します。地域の皆さんが楽しみながら、生甲斐も感じながら活動できることで、笑顔と幸せの連鎖が地域に広がっていきます。

大人も子どもも生き生きと暮らせる地域にするために、公民館はどうしたらよいかよく職員で話し合います。社会教育の主人公は学習者です。学習者の数だけ学習要求はあります。それ

をどう支援するのか。そこで他の社会教育機関との連携も公民館の大切な仕事になってきます。公民館は地域に根ざし、よりよい人と人との関係づくりに努め、それが自発的な地域づくりへとつながっていったらいいなと思います。

「まなぶ・つどう・つなぐ」は公民館機能の1・2・3。一人ひとりが知識を高め、暮らしを豊かにする「まなぶ」機能は社会教育の基本です。公民館はまなびのチャンスを準備することから始まります。「つどう」機能は、一緒にまなぶことにより共感が生れ、グループ活動や同好会活動という仲間づくりができ、そうこうしているうちに、自分たちも社会の役に立つことができなかつたかというように思い、「つなぐ」機能が生まれてきます。小鴨公民館が行う事業は、これらの機能のどれにあたるのか、どの視点で行っているのかを明確にするために、事業を機能ごとに分類しています。今年度は31事業を実施しますが、その中で「男のクラブ」は「つどう」事業に位置づけています。それが本文で見えるように「つなぐ」活動へと発展してきています。

「男のクラブ」の活動の経緯は、まさに「まなぶ・つどう・つなぐ」の理想の展開と言えます。

ほっと一息 コーヒーショップ

「男のクラブ」の前身は「男前教室」。この「男前教室」の名づけ親は、公民館主事のお二人。参加者の興味関心を引くネーミングは公民館事業を成功させる秘訣だそうです。



左は榎田主事、右は伊藤主事

まなぶ

一人の男性の学びの意欲からはじまった「男前教室」

そもそものきっかけは一人の男性の学びの意欲から。「何か男が集うことはできないか」と相談されたことから始まりました。「でも、男性が集うことは難しく、『さあ！団塊の世代集まれ！』と言ってもだれもきませんよね」と畝田主事。そこで、「男性限定の男磨きをやってみましょう！」と受講者を募集。こうして平成23年の春、「男前教室」がスタートしました。

食・心・健康などの講座を5回シリーズで開き、受講生8名～10名が学びを深めるうちに、翌年には「俺たちで何かできることがないかな？」という気持ちが膨らんでいきました。

「公民館の2階にはくつろぎの場として作られたカウンター付きの談話室があります。この場所を活かすにはコーヒーがいいなあ」と皆の意見が一致。これまで公民館主体で開催してきた「男前教室」を平成25年に「男のクラブ」と改名し、公民館の支援を受けながら自主的な取組を開始しました。

まずは1年間コーヒーのいれ方を勉強することから始めましょう」と4月に話し合いをしたのですが、2回の本格的な指導を受けたころには、「7月からコーヒーショップがやってみたい！」と意欲満々。その後、月1回の実践を重ね、学びの中から意識が高まっていきました。



心を入れてコーヒーをいれます！

つどう

コーヒーショップに人が集い、交流の輪が広がっています

「お客さんを確保するために公民館では手話教室、筆文字教室などを企画し、毎月第3火曜日にあるコーヒーショップの日に同時開催することにしました。この日を含めて、版画や川柳等のグループが作品展示もします。作者のギャラリートークがあったり、ギターを弾くメンバーがBGMがわりに演奏したり、談話室は地域の方の気楽なおしゃべりの場になっているようです。本当にこの地域の方は人柄がいいんです」と伊藤主事にもっこり。コーヒーを介して人が集い、交流の輪が広がっていきました。

また、近くのグループホームにおられるお年寄りの方や職員の方も来られ、「車いすでは喫茶店に行きたくてもなかなか行くことができないので、とてもありがたいです」と喜ばれており、福祉サービスにも一役買っています。



地域の人が集う「コーヒーショップOgamo」

つなぐ

地域で活躍するメンバーも！

男のクラブメンバーの「クリスマス会をやろうよ！」そんなつぶやきから始まり、公民館と合同で開催したクリスマス会。2年目の昨冬は、公民館で活動する様々なグループに声をかけて、1年目の倍近い約80の方が参加されました。川柳や手芸クラブなど様々な団体が活動紹介やステージ発表を繰り広げ、団体相互のつながりができました。

さらに、メンバーの中には、衰退状態であった老人クラブの会長を買ってでられた方もいます。シニアクラブと名前を変え、今では倉吉市で一番活発に活動しているそうです。また、自分の町区の自治公民館長(町内会長)になられた方もいます。地域との関わりの中で、人と人のつながりが生まれ、「地域のために」という新たな意欲にもつながっています。



コーヒーはあくまでも人がつながるためのツールです。

男のクラブ

代表 きたむら たか お 北村 隆雄 さん

僕たちはカリスマ性もスター性もない平凡な男たちなんです。でも、場所があれば輝くことができると思っています。地域のみなさんの憩いの場所を提供して、仲間たちと楽しく過ごせたらうれしいですね。この歳で新しい話し相手を探すのは難しいのですが、ここに来ると、コーヒー一杯を楽しみに人が集まり交流が広がります。最近は常連さんも増えてきて、みなさんの喜ぶ顔を見ると私たちの方が元気になります。そんな気持ちが「クリスマス会をやるうぜ」という力になったのだと思います。これからも人が集いつながっていく交流の場を大切にしていきたいです。

「男のクラブ」は進化中！

自主企画で歌の教室ができたり、提案や発信ができるクラブになってきました。5月に九州で実践発表もしました。他団体とのコラボ企画や公民館外からの依頼もあり、活動の幅が広がっています。

「無理なく楽しく活動を続けることが一番大事。もうできん！と言われたら、やめてもいいよという位の気持ちでいます」と話す畝田主事。「男のクラブ」の今後の展開が楽しみです。

人権バンド 'しんゆう'

楽しくなくちゃ人権学習じゃない



バンド名の 'しんゆう' は、しん（親・深・新・心）ゆう（友・勇・優）とどんな字でもあてはめることができます。いろいろな想いを 'しんゆう' に込めて人権啓発活動をしています。

寄稿：人権バンド しんゆう
むらかみ せいじん
代表 村上 成人 さん

はじまりはPTA活動から

10年前、江府町立江府中学校でPTA人権教育推進部長をしていた時に「人権教育を推進していくにあたって、『一人が百歩進むより、百人が一步進むことができるような取組』ができないだろうか」と思いついたのが、解放文化祭で「歌を歌う♪」ことでした。当初は、何を歌う？誰が歌う？楽器はどうするの？というところからのスタートでしたが、みんなが自分にできることから始めていくうちに、一人また一人と仲間が増えていきました。

地域に広がっていった取組

PTA活動を続ける中で、地域全体を巻き込んだ取組ができないだろうかと考え、思いついたのが、人権問題をブラックライト紙芝居にして伝えることでした。地域の保護者、中学校だけでなく保育園・小学校のPTA人権教育推進部、小中学校の教員、学習会参加生徒、そして江府町教育委員会、行政にも協力いただき、地域全体で取り組むことができました。せっかくできたこのつながりを大切に、何か自分たちで新たに発信できる取組はないだろうかと考えました。

人権とか同和問題の講演会というと、堅い話がほとんどで、なぜか心が動かないと自分は感じていました。ある日、他の人権バンドの演奏を聴いた時、詩がメロディーとともに自分の中にスーッと入ってきて、心にストンと落ちるものがありました。その時、音楽で人権の大切さを伝えられたらいいなという想いが芽生え、みんなにバンド結成を呼びかけたのです。

2012年、ついにバンド結成！

バンド結成はスムーズにいったのですが、誰もが冗談半分だと思っているうちに、他地域からもオファーが入り、本格的な活動が始まりました。現在は鳥取県内を中心に活動しています。平成25年に開催された「第38回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会」でも発表する機会をいただきました。

'しんゆう'のメンバーは15名。江府中学校PTA人権教育推進部で活動していた仲間や教員、役場の職員、そしてコンサートを聴いて「私も仲間に入れて！」といってくれた方など顔ぶれはさまざまです。当時中学生だった息子もメンバーです。我が子が一緒にバンドをしたいと言ってくれた時は、本当にうれしかったです。

人権バンドは詩が命。女性問題からいじめ、同和問題などあらゆる人権問題についての詩を曲にのせて歌い、トークも交えて啓発しています。聴いてくださった人の中には共感してくださる人も沢山おられます。

これからも人権バンド 'しんゆう' の活動をとおして少しでも多くの方に歌声をとどけ、人権について考える時間を共有し、心と心をつなぐことができるよう、願い生きていきます。

道 (作詞・BABAKUNI 作曲・飯開輝久雄)

あ〜どこまでも続くこの目の前の道を
ひとりで歩く まわり道をしながら
泣かないで みんな同じさ
生きる喜びを その手でつかみとってほしい
どんな時でも みんな同じさ あきらめないで
チャンスはいつも与えられてる 自由の扉を開こう
それぞれの道で

※ 'しんゆう' のメンバーが作った歌